

くつろぎタイム

より多くの韓国人が 東北に関心と愛情を 感じられるよう 努力していきたいですね

駐仙台大韓民国総領事館(青葉区上杉)
総領事
仙台商工会議所 顧問

パク ヨンミン
朴 容民 氏
1966年9月29日生まれ
大韓民国 釜山出身
血液型O型



延世大学政治外交学科卒業、ケンブリッジ大学国際関係修士課程修了。1991年大韓民国外務部入部。駐オーストラリア大使館1等書記官、駐アメリカ大使館1等書記官、駐インドネシア大使館1等書記官兼領事などを歴任し、2010年駐日本大使館参事官に就任。約2年間勤務した後、駐国連大韓民国代表部公使参事官、駐ルワンダ大使館大使などを経て、今年4月より現職。好きな言葉は、ラテン語の格言「dum spiro spero」(ドウム・スピロ・スペロ)。「生きている限り希望を捨てない」という意味です。生きていくと、時に絶望することもあるでしょう。そんな時に反すうしてみると、よりの良さが分かる言葉です」と話す。

仙台の印象はいかがですか。

実は2011年8月に、家族と一緒に車で東北地方を訪れたことがあります。とてもない災害を経験してから半年もたっていないんですけど、再建と復興が迅速に進んでいることが印象的でした。

その7カ月後、今度は国際交流サービスクラブのプログラムに招待され、妻と二人で再び東北を訪れました。この時は、松島、瑞巖寺、仙台城跡にも行きましたし、ひょうたん揚げや笹かまぼこも食べました。新婚旅行以来、二人の息子が生まれてからは初めての夫婦二人での旅行でしたから、今回6年ぶりにやって来た仙台は、私

健康法や趣味について教えてください。

と妻にとってとても懐かしい場所だと感じています。その気持ちを正確に描写するのは「いづいですが(笑)」。私の個人的な感想ですが、仙台には「強靱な均衡美」を感じます。なぜ「強靱」という言葉が最初に浮かぶのかと申しますと、東日本大震災当時、大変な状況でも冷静沈着に秩序を守り、克服しようとする東北地方の方々の姿に大きな感銘を受けたからです。その上に独眼竜伊達政宗公のイメージが重なり、私の心の中に「強靱」という印象が定着したのではないかと思います。また、「均衡美」は、山と海の均衡、人工と自然の均衡が大変よくとれているからそう感じるのです。私は、30年間で6カ国、9都市で暮らしました。私が今まで暮らした都市の中で、仙台ほど、人や建物、車の数と都市の規模、自然環境など、すべてがちやうどよい均衡を保っているところは他にはありません。友人たちも、日本で一番暮らしやすい都市に赴任できたことを「おめでとう」と言ってくれています。

これまでは、あまり健康に気がつかってきませんでした。その罰でしょうが、昨年の夏に椎間板ヘルニアの手術を受けました。ですから、皆さんにご紹介できる健康法は持っていません。しかし、趣味を通して精神の健康

は守っています。他人に自慢するほどのものではありませんが、私は韓国外交部音楽演奏同好会のメンバーになっていて、ピアノやギター、ドラムなどの練習をしています。また、写真も撮りますし、絵も描きます。映画も見ると、随筆を書いたりもしています。独学でやっていた書道は、これから良い先生を見つけて本格的に習ってみたいと思っています。

まとまった休暇が取れた時には、よく家族で出かけたりもします。ワシントンで勤務していたころは車でアメリカ大陸を横断したり、インドネシアではジャワ島を一周したりもしました。そのような時はキャンプ場を利用することも多く、初めのうち、家内は「キャンプは苦手」と渋々参加していたのですが、体験してみると思っていたより楽しかったようで、今では率先して「出かけましょう!」と言うようになってきているんですよ。

仙台に赴任されて被災地をご覧になられたと伺いましたが、どのような感じでしたか。

「千年に一度」という規模の災害に万全の対応をすることはできないと思っています。しかし、実際に発生した以上、それに対応しなければならぬことが人間の義務でもあると思います。経済再建と復興も重要ですが、災害対策計画を新しくつくることも重要であったと思います。河北新報には今も毎日、震災による死者と行方

今後の韓日関係への期待について、お聞かせください。

不明者の統計が掲載されていますね。それも過去の不幸を決して忘れないという、一種の強靱さの表現ではないでしょうか。被災者の犠牲を無駄にしないためには、制度や構造がはっきりと変わり、改善されなければなりません。これまでの7年間、日本政府と国民、東北地方の人たちが成し遂げてきたことは、世界の多くの人々に重要な教訓を与えています。今までそうだったように、これからも多くの挑戦と困難があるはずですが、東北地方はそれを見事に克服してくれと信じています。

両国の関係がいかに近いかわかることは、「両国の国民がお互いをどれだけ近いと感じるか」で決定します。平昌冬季五輪の時、いくつかの感動的な場面の中で多くの韓国国民が記憶しているのは、スピードスケート女子500メートルで、金メダルを逃した李相花選手を、小平奈緒選手が慰める姿でした。2020年東京五輪まで、また、その後も韓日両国間の民間交流が盛んになることは間違いありません。

私は、隣国が「自らを映し出す最も良い鏡」であると信じています。私があえて日本勤務をもう一度志願したのも、そのような理由からです。韓国人が日本をより深く知ることは、韓国のために重要ですし、日本人にとっても韓国も同じだと思います。

今後の抱負と、会員の皆さんへメッセージをお願いします。

在外国民保護という総領事館の業務が変わることはありませんが、総領事館が今より一層、忙しくなることが目標です。東北地方は韓国国民にとって、より多くの韓国人が東北地方に関心と愛情を感じられるよう努力していくつもりです。昨年、韓国を訪問した日本人観光客は230万人でした。一方、日本を訪問した韓国人は720万人に達しました。実に3倍を超える数字です。両国の人的交流が続くことは良いことですが、均衡がとれていたら、なお良いと思います。仙台商工会議所の会員の皆さまにも、より多くの方々が韓国に関心を持ち、韓国を訪問するように、周囲の方々にも勧めてくださいね。



2011年8月に家族4人で東北地方を巡った際、庄内夕日の丘オートキャンプ場(山形県)で撮影した奥さまとの記念の一枚。

やがて生まれ来る子供たちのために。

宇宙のオアシス『地球』。ただひとつの、この青い星を守って行かなくてはなりません。大切な人のために、そしてやがて生まれ来る子供たちのために。私たちは、よりよい環境をめざし、考えつづけます。



より良い環境をめざす
AOBA 青葉環境保全

本社/仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)